

前向き姿勢を公的な場で示せるか？～イエレン議長半期議会証言

2017年7月10日(月)

米国の年内後一回の追加利上げがあるかどうか、市場の見通しがほぼ真っ二つに別れる中、決断のカギを握るイエレン連邦準備制度理事会(FRB)議長が、12日に下院金融サービス委員会、13日に上院銀行委員会において半期議会証言を行います。

旧ハンフリー・ホーキンス法(法律自体は90年台に失効)の規定が慣習化する形で、2月と7月に実施されるこの議会証言。前回のFOMCでは年内後一回の利上げが示唆され、また今年中のバランスシート縮小の開始が示された中で、議長が公的な場においてどこまで前向きな姿勢を示せるのかが注目されるどころです。

今年も後半戦に入り、あと残された連邦公開市場委員会(FOMC)の予定は4回。この内、参加メンバーの経済・金利見通しが示され、議長の会見も予定されていて政策の変更にあふさわしいとされる回は、9月と12月の二回です。

現時点での市場が最有力と見ている方針としては、9月のFOMCでバランスシート縮小開始について表明を行い、12月のFOMCで追加利上げという展開です。

とはいえ、バランスシート縮小開始を後に回すのではとの見方やインフレ圧力の鈍化を意識して、利上げは来年に回すのではとの見方など思惑がかなり揺れている状況。

金利先物市場の織り込み度合いからみた年内の利上げ割合は約6割程度にとどまっており、利上げ先送り見通しもかなりの割合に登っています。

前回のFOMCでは参加メンバーによる年末時点での政策金利見通し(ドットチャート)で年内後一回の利上げ見通しが最多意見となり、年内2回と合わせ、利上げ実施見通しが大勢を占めました。

また、同FOMCでの声明では、「委員会が予測しているどおりに経済が広く成長するならば、今年中にバランスシートの正常化計画に着手」と早期のバランスシート縮小開始について言及しておりかなり前向きな姿勢が示されました。

また、イエレン議長は前回FOMC後初めての公の場となったロンドンでのイベントに参加した際に「緩やかに利上げを続けることでインフレ目標が適切になるとこれまでも明確にしている」と発言。また、一部の資産価格について「幾分高い」と表現しており、今後の利上げに向けた姿勢をアピールしています。

先週の6日にはフィッシャー副議長が自身の講演の中で「リスク志向の高まりについて注意深く監視する」と発言しており資産バブルの防止と金融安定という面での利上げやバランスシート縮小も市場の話題となっています。

こうした状況だけに、今週の議会証言でイエレン議長が利上げとバランスシート縮小開始について前向きな姿勢を示してくる可能性はそれなりに高いと期待されています。期待通りの姿勢が示されるとドル買いが期待されるどころです。

なお、イエレン議長は来年2月3日に任期満了を迎え、再任はまず無いと見られていることから、おそらく最後となる半期議会証言です。じっくりと証言を確認したいところです。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社エムサーフ」及び「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社エムサーフ」及び「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社エムサーフ及び株式会社みんかぶ